

## 外科手術向け癒着防止材

# 東レ、年内に国内治験

## 内視鏡でも扱いやすく

東レは、外科手術に使用する癒着防止材の国内治験を早ければ年内にも開始する。早稲田大学発ベンチャーのナノシートとの共同開発品で、ガーゼのような構造をしており、開腹手術だけでなく、内視鏡外科手術でも扱いやすいという特徴がある。

東レは癒着防止材の早期上市を目指すことで、医療器材事業の拡大につなげる方針。

癒着防止材は手術後に損傷を受けた組織と周辺組織との癒着を防ぐために使う医療機器。外科手術で臓器表面の腹膜が損傷すると、腹膜の損傷部と周辺組織の癒着が発生し、腸閉塞（イレウス）、疼痛、不妊などの合併症を引き起こす。

東レの開発品は、ナノシートが開発したポリ乳酸（PLA）製の高分子ナノ薄膜を用いた次世代の癒着防止材。癒着防止層とそれを補強する支持層の2層構造からなる。癒着防止層はPLAナノ薄膜で、術後に癒着を防ぐバリアを作った後に、体内で分解・吸収される。支持層は水溶性樹脂でできたガーゼ様構造体で、患部送達後に水で溶

解し、回収する必要はない。従来品のようなフィルム状ではなくガーゼのような柔軟性を持った構造をしているため、小さな孔から挿入する内視鏡外科手術でも取り扱いやすい。

東レは治験開始に向けて、すでに治験品を製造するためのパイロットプラントを完成させてい

る。早ければ年内にも治験を開始できる見通し。すでに上市されているシート状やスプレータータイプ

にはない優れた操作性とバリア効果が期待できるため、上市できれば大きなシェアを獲得することになる。

同開発品については、大鵬薬品と国内での共同開発・販売に関する独占的オプション契約を締結。大鵬薬品がオプション権を行使すれば、共同で国内治験を実施することになる。

国内の癒着防止材市場は約百数十億円規模。科

研製薬が販売しているサノフィの「セプラフィルム」がトップシェアを有している。

